

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表（平成29年度）

法人名	特定非営利活動法人 コレクティブ		川原 秀夫	法人・ 事業所 の特徴	利用者の思いや願い、どのように暮らしていきたいか？等を型にはめ込むのではなく、小規模多機能の特性を活かし、自由な発想や工夫を取り入れながら支援している。また、事業所だけで全てをまかなうのではなく、地域資源を広く活用しながら、臨機応変に対応して可能な限り理想へ近づけるよう努めている。
事業所名	小規模多機能ホーム いつでんきなっせ	管理者	梅田 和幸		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	4人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・全員参加で取組み、話し合っている様子を動画に残す。 ・地域評価の一連の流れを前もって計画する。(12月入ってすぐに自己評価シートの配布。12月中旬より話し合い開始。その様子を撮影する。1月の運営推進会議で動画を流し途中経過を報告する。2月いっぱいまで事業所評価をまとめて3月の月上旬に運営推進委員へ配布。同月の運営推進会議にて地域評価行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合っている様子の動画がない。 ・ケア云々の話は書いてある通りなのだろうから、よりよいものを目指して頑張ってもらいたい。 ・広報誌にしても、のらくら屋にしても有言実行して継続できていることは評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に欠ける。きちんと議論する場がないままなので中途半端になってしまっているのではないかな？ ・具体的にスケジュールを立てておくことが大事。予めスケジュールを立てておくことで全職員の意識付けにもなるのではないかな？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間スケジュール（地域の行事ごとも含む）を立てておくことで、前もって準備など全職員で取り組めるよう意識を高めていきます。 ・前回できなかった話し合いの様子はきちんと残すことで、会議の内容を見直すきっかけにしていきます。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板の地図を目立つ地図に作り変える。 ・ふれあいホーム跡地へ目立つ案内板を作成し、入り口からもわかるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目立つ地図できていない ・目立つ案内板もできていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・看板設置については以前から意見として出ているが、なかなか進まないのはなぜ？掲示板を活用しても良いと言われているのだから活用したらよい。 ・目立つ地図よりも入り口が看板等でわかるようにすることが先ではないか。掲示板は見る人は見ているので、看板として目立つものがあるとわかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板を活用し看板の設置を行います。 *もちろん、交通の妨げにならない配慮は行う。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌は5月、7月、9月、11月、1月、3月作成し、長嶺校区全域の回覧板に掲載するようにする。 ・自治会の掲示板に拡大した広報誌を掲示する。掲示先は3町内、集合住宅のある4、5、7町内に掲示する。 ・共に参加できる活動（まずは母の日のお菓子作り）を開催し、地域と交流できる場となるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌は決められた時期に規定分の作成ができている。 ・掲示板への掲示は3町内のみできているが、集合住宅への掲示はできていない。 ・のらくら屋として月1回の活動できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかく餅つきや清掃活動、祭り等町内の行事への参加はしてもらっているけど、印象に残らない。 ・事業所の認知度が低い。実際にサロンの参加者へ聞いても殆ど知られていない。 ・せっかく作った広報誌も回覧板で回すだけでは、興味のないものは見ない。 ・老人会の集まりに参加をたり、廃品回収等へボランティアとして協力してもらえると助かりもするし、印象に残るのではないかな？ ・サロンで広報誌を配布してみてもどうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域へ出向く際は、ひらがなのネームプレートを身につけ、広報誌持参は参加していきます。 ・老人会の集まりには訪問看護のスタッフと連携（血圧測定等行う）し、小規模多機能ホームの認知度を高める活動を行います。 ・のらくら屋は地域の会食サービス（さわやか茶屋）の活動にならって、食と健康をテーマに企画を行っていきます。*4月はさつまいもで美腸作り

<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主に管理者が会議等に参加していたが、新たに地域担当スタッフを作り、地域との連携強化に努める。 ・引き続き見守りネットワーク会議へ参加し、会食サービスの開始、継続に協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域担当スタッフがしっかり地域へ出向いて活動している。 ・見守りネットワーク会議への参加も会食サービス（さわやか茶屋）への参加もきちんとできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心配していた地域の方が「いつでんきなつせ」に関わってもらったことで顔なじみもできて、今ではサロンやさわやか茶屋でも楽しく参加されている。このような輪がもっと広がれば良い。 ・のらくら屋も集いの場となっているし、サロンや会食サービスも定着しており、選択のできることは良いことであるが、男性の利用者がどこもない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の広報誌のテーマとして、長嶺校区内外の地域資源を小規模の活動と絡めながら紹介してまいります。
<p>E. 運営推進会議を 活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で関わった方、関心を持っていただく方へ積極的に声を掛けて事業所のことを知ってもらい会議への参加を呼びかけ、いろいろな方々と地域について考えていける会議にしていく。*まずは、子供会と福祉部の方へ参加を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のらくら屋やさわやか茶屋では子供会や福祉部との関わりはできたが、会議への参加にまでは至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この会議自体はある程度の日程等も含めて認識できているので、このまま曜日は変更せず続けても大丈夫である。 ・会議に参加とはいかないまでも、子ども会とも交流が始まっているようであるし、最初に比べると広報誌も定期的に作成できているので改善できている面もある ・集まりごと（交通指導員の旗もちなど）若手世代の協力がなかなか得られない。一度参加してもらえると子ども達との交流（挨拶をかわすこと、タッチをすることなど）で元気をもらえることがわかるのだが…なにか考えてもらえないか？ ・若い世代を巻き込むには、子どもたちと交流する機会をつくるのが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度はのらくら屋の企画で子ども会との関わりも持つことができたので、引き続きのらくら屋の企画へ参加を呼び掛け、世代間交流をおこなっていきます。
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練を地域と協同行うため、普段の避難訓練から救急救命措置、AEDの使い方、消火器の使い方等の具体的な訓練を共に学び、防災意識を高めていけるように努める。 	<p>救命救急措置やAEDの使い方などはできたが、地域と協同するまでには至っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームでの訓練へ参加しAEDの使い方は、今まで機会がなかったのがためになった。 ・3町内での防災訓練がないので、ホームと地域と協同行ってみたいはどうか？ ・周知がここでも大事。消防車で地域を回ってもらうなどしてもらったら？子どもたちは好きだし、ホームのことを知ってもらえるのではないか？ ・震災も経験しているし、今だからこそやっていくべきだ。 ・日頃から今日は誰が火元責任者であるかを決める。連絡はどこにするのか？など決まりごとを目につくところへ掲示しておくといざというときに慌てないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間スケジュールのなかにきちんと年2回の避難訓練は盛り込み、少なくとも1カ月前から計画を立て地域にも呼びかけを行う。それ以外にも部分的な訓練（消火器の使い方、AEDの使い方など）間に入れて、防災に対する意識の低下を防いでいきます。 ・ホワイトボード等を活用（人員確認、火元責任者の見える化）し、緊急時の連絡をスムーズにします。